

# ストーカー治療に重点

## 特有心理再犯防止で警察庁

東京都三鷹市の女子高生殺人事件で、殺人罪などで起訴された元交際相手の池永チャールストーマス被告(21)が勾留先の立川拘置所(東京都立川市)で毎日新聞の取材に応じた。池永被告はストーカー行為や殺害の理由について「復縁ではなく、連絡を取り続けたかった。彼女の死を考えると楽になつた」などと述べた。こうした発言に象徴されるストーカー加害者の理由について「復縁ではなく、連絡を取り続けたかった。彼女の死を考えると楽になつた」などと述べた。

こうした発言に象徴されるストーカー加害者の理由について「復縁ではなく、連絡を取り続けたかった。彼女の死を考えると楽になつた」などと述べた。

### 三鷹事件の被告

池永被告との主な一問一答は次の通り。

——今、事件をどう考えるか。  
◆後悔している。ただ、たくさん

の心の矛盾がある、自分自身、回答が出来ない。間違ったことは言えないので心境は控えたい。

——ストーカー行為は犯罪だ。認

識していたのか。  
◆分かっていた。現に、友人にも話さなかった。

——殺意を抱いたのはなぜか。

◆昨年2月に別れを切り出され、翌月に別れた。でも、直後は殺そうという気はなかった。6月に彼女の父親から連絡があり、これ以上連絡してこないよう言われた。携帯電話やメールの着信も拒否された。殺意が芽生えたのは7月後半ごろ。いつたんはあきらめようと考えたが、彼女の死を考えると気持ちが楽になつた。(殺害することで)終わりが見えるから。

——別れた後も連絡を取つたと聞

## 「彼女の死を考えると楽に」

(社会面に関連記事)

### 警視庁で先行研究

ストーカー加害者を巡っ

ては、警視庁が来年度から

施となる見通し。

【川辺康広】

警察から警告を受けた加害者は精神科医の診察を受けよう促す取り組みを始めている。被害の防止策として、刑事司法上の手続きだけではなく分とはいえないと判断したため、治療の効果を検証したいとしている。当面は警視庁管内でのみ実施する方針で、2014年度予算案に加害者数十人分の治療に向けた研究費用として約1100万円を計上した。

警視庁によると、警告した加害者に対し、被害者の了解を取つたうえで定期的なカウンセリングの受診などを促す。実際に受診するかは加害者の自由で、費用を警察庁が負担する仕組み。

実際の診察には福井裕輝教授(被害者学)も「殺害する」という説明について、「海外の取り組みも参考に効果的な手法を研究したい」としている。

【松本博、林奈緒美】

今月24日に面会に応じた池永被告は、丸刈りが少し伸びた髪形で上下シャーリング

こうした説明について、加害者治療に実績のある精神科医の福井裕輝さん(44)は「ストーカー加害者は相手に対する愛情と憎しみが共存し、感情を整理できぬ場合が多い。池永被告は物に連絡を取つた理由について、復縁目的ではなく強調。ストーカー行為は犯罪と認識していたとしても、連絡が途絶えてすべてを手放すのは勇気がいる。連絡の強要はしました」と話した。

こうした説明について、加害者治療に実績のある精神科医の福井裕輝さん(44)は「ストーカー加害者は相手に対する愛情と憎しみが共存し、感情を整理できぬ場合が多い。池永被告は物に連絡を取つた理由について、復縁目的ではなく強調。ストーカー行為は犯罪と認識していたとしても、連絡が途絶えてすべてを手放すのは勇気がいる。連絡の強要はしました」と話した。

常磐大大学院の諸沢英道教授(被害者学)も「殺害する」という説明について、「海外の取り組みも参考に効果的な手法を研究したい」としている。

教授(被害者学)も「殺害する」という説明について、「海外の取り組みも参考に効果的な手法を研究したい」としている。

【松本博、林奈緒美】

手に対する愛情と憎しみがちで、復縁を望んでいない場合が多い。池永被告は物に連絡を取つた理由について、復縁目的ではなく強調。ストーカー行為は犯罪と認識していたとしても、連絡が途絶えてすべてを手放すのは勇気がいる。連絡の強要はしました」と話した。

手に対する愛情と憎しみがちで、復縁を望んでいない場合が多い。池永被告は物に連絡を取つた理由について、復縁目的ではなく強調。ストーカー行為は犯罪と認識していたとしても、連絡が途絶えてすべてを手放すのは勇気がいる。連絡の強要はしました」と話した。

【松本博、林奈緒美】